



# オリーブ便り Olive News

2019.07.01

No. 421



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

基本  
理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

## 「がんゲノム医療センター」の設置について

香川大学医学部附属病院 がんセンター 助教 奥山 浩之

近年、薬物療法が著しく進歩しています。従来は、同じ病気の患者さんに対して同じ治療を行うことが基本でしたが、現在は、患者さんの体質や病気の特徴に合わせて治療を選択する「個別化医療」が少しずつ行われるようになってきました。がんの領域でも、主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ(がん遺伝子パネル検査)、遺伝子変異を明らかにすることにより、患者さんの体質や病状に合わせて個別化医療を行う時代になりつつあります。このような医療を、がんゲノム医療と呼んでいます。がん遺伝子パネル検査は、現在は自費診療や研究として行われていますが、まもなく保険診療として行うことができるようになるとされており、次世代の治療として非常に期待されています。

当院は以前より臨床研究などを中心としてゲノム医療に積極的に関わってきました。さらにはがんゲノム医療連携病院の指定も受け、今後、がんゲノム医療が保険診療となった際には、香川県域の病院のゲノム検査の窓口となるべく準備を進めております。

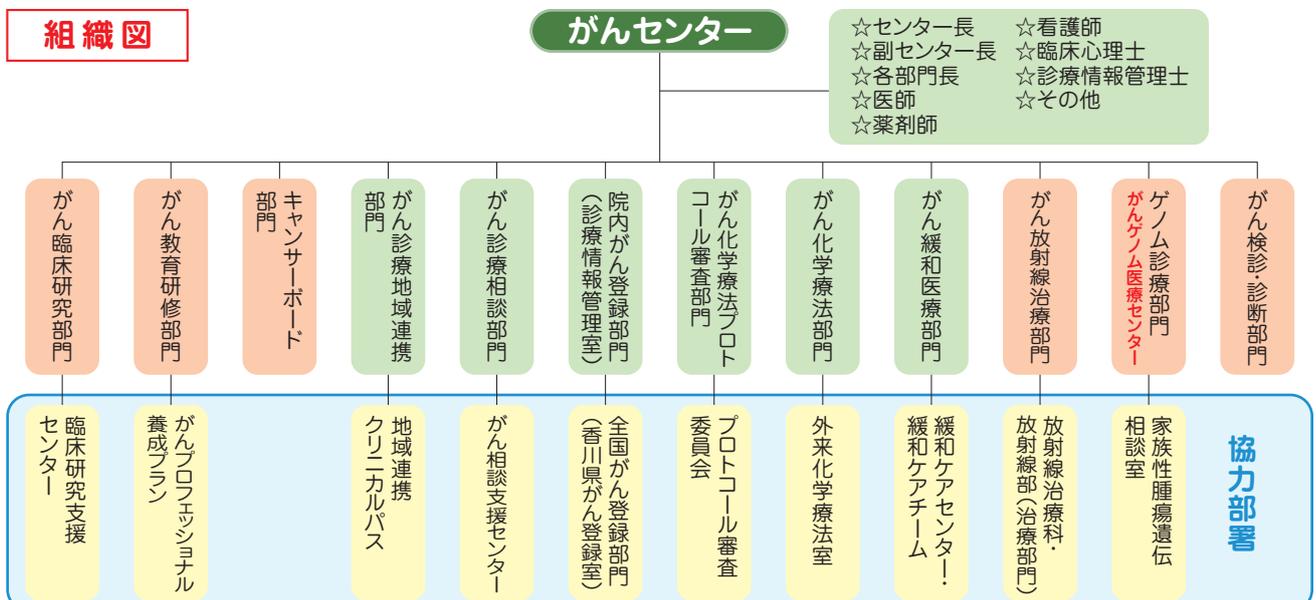
非常に期待の高いがんゲノム医療ですが、一方で大きな三つの課題があります。一つ目は、がん遺伝子パネル検査の結果の解釈を行うには専門的な知識が必要であること、二つ目は遺伝子変異が見つかったとしても使用できる薬が少ないということです。現段階では、新たな治療に結びつく患者さんは全体の10%程度と言われていています。これに対しては新しい薬の開発が重要です。三つ目は、この検査で、がんになりやすい遺伝子のタイプであることが判明する可能性があることです。このような場合、ご家族の方も同様の遺伝子タイプの可能性があるため、患者さんのみならず、ご家族の方もサポートが必要となります。そのため、遺伝カウンセリングの体制の更なる充実が必須です。

以上を受け、患者さんに安心して質の高いゲノム医療を受けて頂くために、令和元年5月1日にがんゲノム医療センターを立ち上げました。

がんゲノム医療センターは、香川大学医学部附属病院がんセンターの中に設置され、がん診療を行う各科の医師、看護師、検査技師、ソーシャルワーカー、遺伝カウンセラーなどから構成されています。多職種でチーム医療を行うことで、患者さんに安心して最適なゲノム医療をご提供できると考えています。さらに、香川県の地域の医療機関との連携の中心となり、医療スタッフの育成にも努めていきたいと考えています。

今後、患者さんから信頼されるがんゲノム医療センターとなるよう、スタッフ一同全力で取り組んでいきます。皆様方の温かいご支援とご助言を心よりお願い申し上げます。

### 組織図



## 診療科長の横顔

### 私のポリシー

「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(新約聖書)この言葉は、小児科病棟(東病棟2階)での重篤な疾患の子ども達や新生児集中治療室(NICU)での新生児を診療するとき、常に頭に浮かぶ言葉です。聖書ではこの行為の例えとして、飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたとき飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたこと、が記載されています。しかし私には、重篤な疾患に苦しむ子ども達や小さな超低出生体重児を診療した際、困難な診療やご両親の心情への対応に困り、解らなくなった場合でも、一生懸命その状況に対して最善に取り組むこと自体が、その聖書の言葉自体に込められた意味だと考えています。その重要な意義は自分の周囲の人たちに仕えていく、そのような人間愛に基づき、それを実行することであると思います。このため私自身「愛を持って仕える」ことが継続して出来るように、診療や教育、研究に取り組んでいきたいと考えています。



香川大学医学部  
小児科学  
教授 日下 隆

## 師長の横顔

### 座右の銘

「人間は努力する限り迷うものだ」これは、23年前の実習指導者研修で、講師の先生からいただいたゲーテの言葉です。自分のノートにこの言葉を赤で何重にも囲っていました。この言葉に何度と励まされ、救われてきました。迷うのは、もっと良い方法があるのではと頑張っている証拠と考えるのです。人生は選択の連続です。夢や目標をもって、より良いものをこれからも迷いながら見つけていこうと思います。

### 病棟紹介

0歳から15歳までの子どもたちが入院しています。病気や障害を持っていても、その子らしく成長・発達できるように、こどもや家族に寄り添いながら、スタッフみんなが支援しています。私たちは「子どもたちの成長と病気を乗り越える力」を応援し、日々奮闘しています。



香川大学医学部附属病院  
東病棟2階  
師長 平木 久美子



小児科 集合写真



東病棟2階 スタッフ集合写真

平成30年度医学教育等関係業務功労者として、放射線部の「小川 和郎」氏及び薬剤部の「辻 繁子」氏が、文部科学省から表彰されました。

これは、小川氏が診療放射線業務に関し、辻氏が薬剤関係業務に関し顕著な功労があったことにより表彰されるものです。この受賞を受けて3月28日(木)に、横見瀬病院長に受賞報告がありました。



左から加地 院内副薬剤部長、辻 薬剤主任、横見瀬 病院長、小川 副診療放射線技師長、  
笹川 診療放射線技師長、西山 放射線診断科長

### 臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 倫理委員会委員長  
香川大学医学部附属病院 治験審査委員会委員長  
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

**イキイキさめき健康塾**  
香川大学医学部附属病院 医療セミナー



詳しくはこちら

## 頭部外傷後に起こりうる疾患 —頭部打撲後…いつもと違う?—

香川大学医学部 脳神経外科学 助教 畠山 哲宗

頭部外傷は重症例では脳挫傷や急性硬膜外血腫など生命にかかわる状態になる疾患です。しかし軽症の頭部打撲の場合、その後に出現する症状の原因が頭部打撲によるものと気づかないことがあります。代表例として頭部打撲から数か月後に起こる慢性硬膜下血腫という病気がありますが、他にも注意すべき疾患がいくつかあります。

まず脳震盪ですが、頭部打撲後の画像検査にて明らかな所見が無くても、頭痛、ふらつき、嘔気、めまい、倦怠感などの様々な症状が出てくる場合があります。これら自覚症状がある場合は基本的には安静にすることで多くの場合数日で症状が軽快します。ただし脳震盪を複数回繰り返すと、認知障害を中心とした恒久的な障害が残る場合があります。そのため頭部打撲を繰り返すコンタクトスポーツを行っている場合は注意が必要です。

次に高次脳機能障害も起こる可能性があります。頭部外傷後、麻痺や意識障害が無い、あるいは改善したとしても、その後記憶障害、注意障害、易怒性に気づくことがあります。特に職場など社会復帰した後に気づかれることもあります。

脳脊髄液漏出症も外傷後に起こすことが多い疾患です。この疾患は頭痛、めまい、倦怠感、光過敏、音過敏など様々な症状を呈し、診断自体が難しいことも多くあります。起座位で症状が悪化し、臥床姿勢で症状改善するかどうかは、この疾患を疑う上で重要なサインです。

また外傷後にてんかん発作を発症する場合があります。特に若年者ではてんかんの原因全体の1割から3割を占めており注意が必要です。

このように頭部外傷後は軽傷であっても、その後何らかの症状の自覚がある場合は脳神経外科などを受診していただければと思います。



第41回イキイキさぬき健康塾(平成30年11月11日開催)の講演内容を要約したものです。

### イベントカレンダー 2019.7~8月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
7/11 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
7/14 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール 高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町番街東館4階	イキイキさぬき健康塾 (もっと知って悩みを解決! おしこの仕組みとトラブルの原因)	総務課	(087)891-2008
7/19 金	14:00~15:00	臨床栄養部 研修室	カフェ「おりーぶ」	がん相談支援センター	(087)891-2473
7/21 日	13:30~16:20	サンサン館みき 木田郡三木町氷上2940番地1	市民公開講座 「身近な病気、肝臓病とは?最新の肝臓病治療」	消化器・神経内科学	(087)891-2156
7/25 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と歯科衛生士が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
8/8 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
8/22 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と理学療法士が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

(2019年7月現在)

阿部(看護)、荒井(検査)、大高(医療支援)、奥山(病棟)、榎原(管理)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、  
富田(経営企画)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、前川(医事)、横井(医療情報)、横川(総務) [委員長 横見瀬病院長]